

にぎわい通信 227号 (九州版)

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク



九州からは、長崎県対馬市より、今年8月4日に登録された「みなとオアシス対馬 厳原」と「みなとオアシス対馬 比田勝」及び国内初の「混乗便」についてお伝えします。



平成30年8月4日、全国で119箇所目及び120箇所目となる「みなとオアシス対馬 厳原」「みなとオアシス対馬 比田勝」が、「厳原港まつり」のなかで同時に登録され、谷川弥一衆議院議員、古賀友一郎参議院議員や長崎県議会議員並びに対馬市議会議員等の出席の元、登録証交付式が執り行われました。

交付式では、魚住国土交通省港湾局産業港湾課長が「みなとオアシスが核となり、対馬市において国境を越えた、人や文化の交流が益々盛んになることを期待している。」と挨拶し、村岡国土交通省九州地方整備局副局長より「みなとオアシス対馬 厳原」及び「みなとオアシス対馬 比田勝」の設置者である比田勝対馬市長へ登録証が手渡されました。比田勝市長は「両港がみなとオアシスに登録されたことにより、イベントの全国的なPRと、住民参加による観光振興や交流を通じた地域の活性化に、より一層拍車がかかり、よりみなとを核とした街づくりが進んでいくものと期待している。また、今後においては、「みなとオアシス」を最大限に活用し、対馬の魅力を発信し、交流人口の増大、及び島内消費の拡大に努めて参る」と挨拶をしました。



登録証交付式

右：比田勝対馬市長

左：村岡九州地方整備局副局長

今後の両みなとオアシスを中心としての港を核としたにぎわい促進が期待されます。

「みなとオアシス対馬 厳原」

【朝鮮通信使】



朝鮮通信使は、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄慶長の役）によって断絶した日本と朝鮮の国交を回復するため、徳川家康の意向を受けた対馬第19代島主・宗義智（そうよしとし）の外交努力により朝鮮から日本に送られるようになった外交使節団です。

平成29年10月31日には「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ記憶遺産(世界の記憶)に登録されました。

現在では、8月初旬に開催する「厳原みなと祭り」において、韓国から正使・副使、舞踊団などを招請し、500名程の行列を再現しています。

【対馬 厳原港まつり】



厳原港で開催される対馬の夏を代表するイベントで、江戸時代に対馬藩が大きな役割を果たしていた国家的イベント「朝鮮通信使」の行列を再現したパレード、舟グロウ（和船による競争）、納涼花火大会、子供みこし、歌謡ショー、よさこいなどが、みなとオアシスの構成施設である厳原港 3・4号岸壁及びびん頭用地にて開催されます。

「みなとオアシス対馬 比田勝」

【国境の島】



対馬は韓国までは直線距離で49.5kmに位置し、「国境の島」と呼ばれています。

地理的な好条件により、平成28年1月の新国際ターミナルの供用開始以来、気軽に行ける海外旅行先として近年増え続ける韓国からの観光客を地域活性化の柱として捉え、民間事業者と連携しリピーターや宿泊者を増やすための取り組みが行われています。

【国境サイクリング】【国境マラソン】



アップダウンを繰り返す過酷なコースと、対馬の豊かな自然と独自の文化が魅力的な国境サイクリングと国境マラソン。

大会名のとおり例年韓国からの参加者も多く、国際交流が図れるのも魅力

の一つです。

皆さんも是非、対馬市のみなとオアシスに遊びに来てみませんか。

〈お問い合わせ先〉 対馬市役所 建設部 管理課 ☎0920 (53) 6111

「混乗便」ビートル

平成30年7月23日から国内初の「混乗便」が始まりました。「混乗便」とは、国際航路として運航している旅客船に国内旅客を乗せて運航することです。

この「混乗便」は、博多―釜山間で国際航路を運航しているJR九州高速船(株)のジェットfoil「ビートル」に乗り、比田勝と博多間を行き来したいという対馬北部の市民皆様からの声を受け、国や航路会社などとの交渉や協議を重ね、九州郵船(株)、JR九州高速船(株)、対馬市の3者での運航実現に向けた協定などを経て、今年5月9日に国土交通省から認可が下り、実現の運びとなりました。

なお、この混乗便は、九州郵船(株)が「ビートル」の座席(26席)を一部利用して7月23日から運航を開始しております。

この運行により6時間弱かかっていた福岡までの時間が2時間10分となり利用者の利便性が格段に上がっております。



平成30年7月混乗便(比田勝港⇔博多港)運航